平成２１年度社会技術研究開発事業 研究開発プロジェクト

研究開発プログラム　：「科学技術と社会の相互作用」
プロジェクト名　：「自閉症にやさしい社会：共生と治療の調和の模索」
研究代表　：人間社会研究域学校教育学系・教授　大井　学
申請研究費　：５，４００万円
期間　：平成２１年１０月から２４年９月まで
採択件数／応募件数　：４件／４４件

〇研究概要

当プロジェクトは、この 10 月から 3 年間、金沢大学の文系理系研究者と教育・福祉・医療・保健の関係者や、健常児の親、自閉症の当事者と家族の NPO 等と連携し、**市民参加型共同研究をすすめる。国内外でも珍しい試み**となる。

〇研究の背景

近年、アスペルガー症候群など**平均かそれ以上の知能を持つ自閉症（高機能 ASD）が人口の１%程度にみられる**こと、彼らが幼少期から成人期に至るまでの**人生の各ステージで社会適応の困難に直面**していることが専門家に知られるようになった。自閉症はスペクトラム（濃淡のまだら模様）であり、**自閉症でない人との境界線を明確に引くことは難しい。**また、知的に遅れがない人にはノーベル賞受賞者もいれば、異様な事件を起こすケースがある。この両極端のあいだに、個性的な職業人として活躍する人もいる一方、不登校やいじめ、職場でのトラブル、失業や精神疾患のリスクにさらされている子どもや大人たちが多数いる。**早期発見・適切対応により円満な人生が送れるよう対策を講じることが急務**である。しかし**一般社会の HFASD 認知度は非常に低く**、また、親のしつけや本人のわがままといった偏見も根強い。HFASD 児者への接し方も個性尊重の立場と、厳しい指導という立場が混在し、**子育てや職場での支援に関する社会的な合意が得られていない**。

これに対し、**世界的に脳科学に基づく自閉症早期発見・治療への挑戦が急ピッチで展開**しつつある。**金沢大学でも 21 世紀 COE の中で、社会性ホルモン・オキシトシン関連遺伝子変異が自閉症で発見**され、オキシトシン投与薬物治療の可能性が検討されている。また、他方で**知的クラスター創成事業において脳磁計等を用いた 3 歳児 HFASD の早期発見技術の開発**がすすみつつある。脳科学の急速な進歩を受けて、**自閉症は医学的治療の対象なのか、社会的な配慮の元で共生する相手なのか**という疑問に答える必要がでてきた。これは医学研究者だけでは解答が困難で、哲学や社会学、法学を含めた文系研究者の参加、当事者や家族、一般社会の人々と共同で答えを探すことで学問的にも社会的にも妥当な対応、すなわち**自閉症の治療と共生の調和のあり方**を探らなければならない。

〇具体的な内容

本研究プロジェクトでは、**研究者と市民が対話する「自閉症サイエンス・カフェ」**を各方面で開催し、また大学人が**市民からの疑問を受けて研究をすすめる「自閉症サイエンス・ショップ」**を設ける。活発な対話のために SNS を活用する。学校を対象に保護者や教師の自閉症認識を調査し、**自閉症に優しい学校社会のあり方を研究者と学校の教職員や PTA との共同**によって探る。

〇最終目的

　このプロジェクトのゴールは、今後の加速度的な自閉症脳科学研究の進展を見据え、自閉症の治療と社会的な共生の調和のありかたを明らかにし続ける、**研究者と市民による「地域自閉症共生・治療共同体」（仮称：市民と研究者が集う自閉症広場）を構築**し、自閉症科学技術開発に持続的に対応できる地域社会的システムを構築する。それは自閉症にとどまらず、各種精神疾患の学問研究と社会との連携モデル、研究者の社会性を高め、市民の科学技術への目を養うシステムのモデルとなる。

〇補足

独立行政法人科学技術振興機構（ＪＳＴ）社会技術研究開発センターとは

社会の具体的な問題の解決を通して、新たな社会的・公共的価値を創出する機関。社会問題の解決に取り組む関与者と研究者が協働するためのネットワークを構築し、競争的環境下で自然科学と人文・社会科学の知識を活用した研究開発を推進して、現実社会の具体的な問題解決に資する成果を得る。また、得られた成果の社会への活用・展開を図る。

社会技術研究開発事とは

社会技術研究開発センターにおいて社会問題解決に重要と考えられる研究開発領域を設定し、領域ごとに研究開発プログラムを設定して提案を募集し、選定された研究開発プロジェクトを推進するもの。